

大豆品種「スズユタカ」「ホウレイ」の晩播限界

宗 村 洋一・酒 井 孝 雄・服 部 実

(福島県農業試験場)

The Critical Time of Late Seeding of Soybean Variety 「Suzuyutaka」 「Hourei」
Youichi MUNEMURA, Takao SAKAI and Minoru HATTORI
(Fukushima Prefecture Agricultural Experiment Station)

1 は じ め に

福島県における大豆の晩播限界は従来シロセンナリ(中生種の早, 生態型Ⅱb)で7月2半旬とされてきたが, 品種の変遷にともない, 今回新たにスズユタカ(中生種, Ⅱc), ホウレイ(早生種, Ⅱb)について晩播限界を策定した。

2 試 験 方 法

1988年～1990年の3か年に福島農試本場転換畑において6月5半旬から8月1半旬まで播種を繰り返し, 開花期, 成熟期及び生育収量を調査した。施肥量はN:0.2, P₂O₅:0.8, K₂O:0.8 (kg/a), 栽植密度は2,860本/a(畦幅70cm, 株間10cm, 1株2本立)とした。各半旬の播種日は表1のとおりである。なお, 播種時の土壌過湿が著しく, 播種を延期又は試験を中止した区がある。

表1 各半旬における播種日

年 次	播 種 期 (月-半旬)								
	6-5	6-6	7-1	7-2	7-3	7-4	7-5	7-6	8-1
1988年	6/23	-	-	7/6	7/13	-	-	-	8/1
1989年	6/23	-	7/5	-	7/14	-	7/25	-	8/4
1990年	-	6/29	-	7/7	-	7/18	7/23	7/27	8/2

3 試験結果及び考察

(1) 生育概況

試験初年目の1988年は天候が不順で生育が遅れ, 生育量も不足した。1989, 1990年は生育初中期に高温乾燥が続いたため, 生育は早まった。

(2) 開花期

開花期(図1)は播種期の遅れにともない遅延し, スズユタカ, ホウレイとも8月1半旬の播種では, 1, 2年目で9月上旬となった。

また, 播種から開花期までの日数は播種期の遅い区ほど短縮した。

(3) 成熟期

成熟期(図1)は, 播種期の遅れにともない遅延し, スズユタカ, ホウレイとも7月6半旬以降の播種では年次によって成熟期にいたらない場合があった。

開花期から成熟期までの日数(結実日数)は両品種とも播種期の遅い区ほど短縮した。しかし, 7月3半旬までの播種期ではホウレイはスズユタカより結実日数が短く成熟期も早かったが, 7月4半旬以降の播種期ではスズユタカがホウレイより結実日数が短く, 成熟期も早かった。播種期が遅れることで結実日数や成熟期が逆転した現象は, 品種特性の違いから生じたものと考えられる。

以上, 品種の違いによって開花期から成熟期に至るまでの過程が異なったものの, 成熟状況からみたこれらの品種の晩播限界は7月5半旬と判定された。

(4) 主茎長

主茎長(図2)は晩播になるほど栄養生長期間が短くなるため, 7月4半旬以降の播種期の主茎長は40cm以下になることが多かった。主

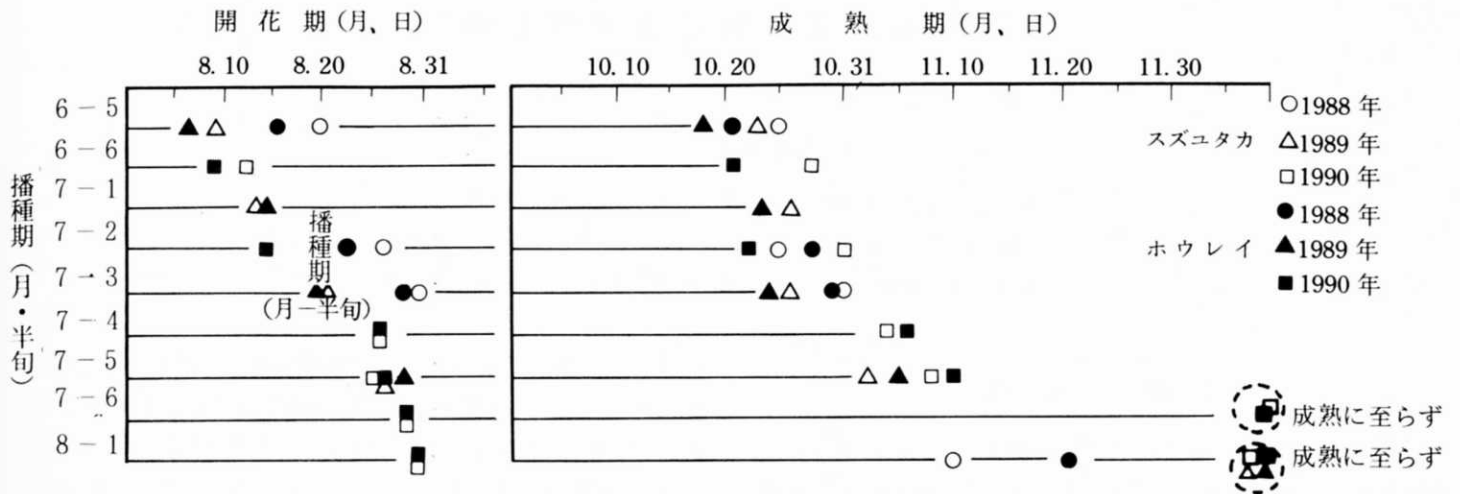


図1 大豆の播種期と開花期, 成熟期 (1988-1990)

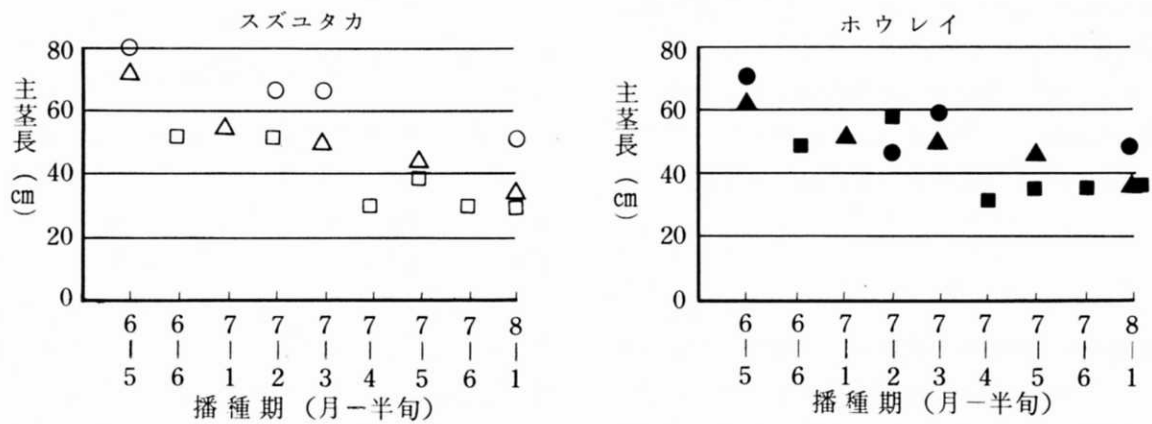


図2 大豆の播種期と主茎長 (1988-1990)

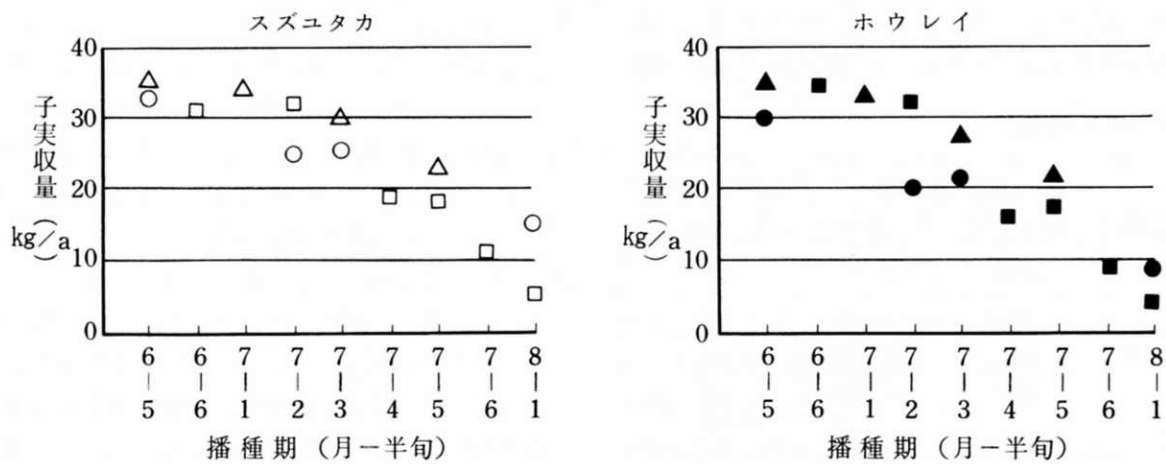


図3 大豆の播種期と収量 (1988-1990)